土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　砂防工事全体計画書作成業務

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　構造物基礎

ボーリング名	Bor No.3-西ノ谷川支川-補助基準点2	調査位置	広島県安芸郡海田町	北緯	34° 21′ 09.4126″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	令和2年 9月 1日～ 令和2年 9月 2日	東経	132° 33′ 34.5413″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 193.95m	角度	180° 上 90 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南
総削孔長	8.00m	地盤勾配	40° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D1B-58 / エンジン：ヤンマーTF120V-E / ポンプ：東邦BC-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事
	193.45	0.50		粘土混じり砂		暗褐			細～中砂の砂を主体とする 径3cm以下の礫を少量混入する
	192.95	1.00		礫混じり砂		茶褐			径7cm以下の礫を20～30%混入する 砂は中～粗砂を主体とする
1				玉石		淡褐灰	rd5		GL-1.00～2.00m間は風化が進行した転石でハンマー軽打で砕ける GL-2.00～3.00m間はL=15～25cmの柱状で採取するがコア肌は比較的に粗く亀裂面に沿って土砂～礫状となる GL-3.00～4.00m間はコア肌が粗く鉛直亀裂によりL=5～10cm以下の岩片状主体となる GL-4.00～4.60m間は柱状で採取する GL-4.60～4.80m間は礫混じり砂となる GL-4.80～4.90m間の玉石は暗青灰色の閃緑岩質となる
2									
3									
4									
	189.05	4.90							
5				花崗岩		黄褐灰			DH級岩盤 風化が進行し撹乱すると土砂～細礫化する 部分的に径1～2cmの礫状コアとなる
6	187.95	6.00							
	187.60	6.35		花崗岩		淡褐灰			CL級岩盤　径5cm以下の礫状～岩片状コアで採取する　部分的に土砂化する
7				花崗岩		淡灰			CH級岩盤 L=15～25cmの柱状コアで採取する コア肌は比較的になめらか 亀裂面は暗褐色に変色し土砂を挟む
8	185.95	8.00							
9									
10									
11									
12									
13									

孔内水位／測定月日：9/1 6.20

標準貫入試験

深度―N値図（0 10 20 30 40 50 60）

N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
50以上	1.15 1.35	25	25		50/200	200	
50以上	5.05 5.08	50 30			50/30	30	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				9/1
				9/2